

生活設計に係る家事労働（第2報）

家族の家事労働への参加

原田涼子

The Effect of Household Work on Life Planning (Part 2)

— Family Members' Participation in Household Work —

Ryoko HARADA

Women who map out a life plan to continue working after marriage encounter various problems that they are incapable of solving by themselves. Problems in the workplace environment have been considerably resolved through various measures implemented over the more than 50 years since the end of World War II. However, women still shoulder a large share of the housework, even though industries that undertake household chores as a service have developed to a remarkable extent. As a continuation of the previous research, the present study looked at the extent to which family members (i. e., students at Teikyo Junior College) participate in doing housework, based on an examination of the time actually spent on daily life activities.

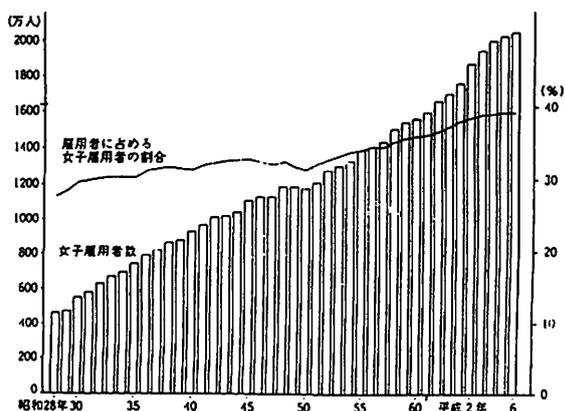
要 旨

女性が結婚後も仕事をし続けるとして生活設計を立てた場合、本人だけではどうにもならない諸問題がある。職場環境における問題は、戦後50年余の間にいろいろな事件を通してかなりの解決をした。しかし家事労働に関しては、代替産業の目覚ましい発展もあるが、まだまだ女性の負担は大きい。

今回は、前回に引き続き家族（本学学生）がどの程度家事作業に参加しているかを生活時間調査を通して調べてみた。

1. 緒言

働く女性が昭和28年～平成6年までの女子雇用者数及び雇用者に占める女子の比率の推移（図1）で示しているように2000万人を超えた現代（図1）女性が仕事をし続けるためにはいろいろな問題がある。職場環境については、戦後50年余の間にさまざまな事件、争議、男女平等、男女同一賃金、保育所、育児休暇、女子保護の見直し、男女雇用機会均等法（1999年4月1日改正）の施行等男女の格差は解消されつつある。しかし家事労働に関しては男女を問わず女性の仕事とい



総務庁「労働力調査」(1995)

図1 女子雇用者数及び雇用者に占める女子比率の推移

う意識がまだまだ根強い。女性が働き続けるために必要な援助・制度の東京都での調査（図2）が示すように家事作業の時間を短縮するためには家族の分担協力が必要である。そこで家族が家事参加をどのくらいしているか前回に引き続き本学学生を対象に調査集計をした。

表1 生活時間調査集計表

相 字 籍 番 号 氏 名

項 目	調 査 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日		RMR
	時 間 (分)	Kcal	時 間 (分)	Kcal	時 間 (分)	Kcal			
生 理 的	睡 眠	眼 事							
	食 入	身 浴							
	身 仕	度 他							
	小 計								
家 事 的	調 理	後 片 づ け							
	洗 濯	掃 除							
	小 計								
	合 計								
取 入	ア ル バ イ ト	動 計							
	小 説	書 強							
	電 通	学 オ							
	レ ビ ラ ジ	オ 間							
社 会 的 分 化 的	小 計								
合 計									

2. 調査方法

表1の生活時間調査集計表を使用し、家事的な生活時間のうち調理、後片づけ、洗濯、掃除への3日間の参加時間を調査集計をした。

調査対象は、本学学生2年生の生活概論受講生の平成3年度から平成10年度までの各年度100人である。

3. 結果および考察

家事作業のうち調理(図3)、後片づけ(図4)、掃除(図5)、洗濯(図6)に参加をした調査結果である。前回(昭和62年)の調査と比較をすると調理+6分、後片づけ-16.8分、掃除-0.1分、洗濯-8.5分という結果となる。

男女同一労働(職業労働+家事労働)は、NHKの日本人の生活時間調査(表2)でみられるように既婚男性8時間42分であるのに対し、既婚女性10時間36分というように両者の間に約2時間の開きがある。

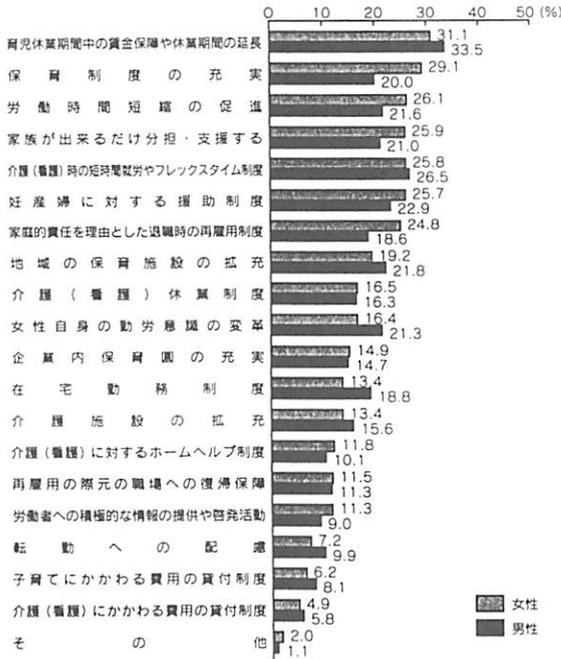
このように家族の協力を期待することができないとすると家事労働の代替産業に頼るしかない。しかし、代替産業を利用するためには、家計に関する新たな問題が生じてくるのである。

4. あとがき

家事労働は、男女を問わずその作業に参加することによって、子供のしつけ、創造力の育成、物をつくる喜びを知る等、人格形成において最良のチャンスだといえる。

また家庭の機能を果たすためには、家事作業だけでなく介護の問題等、将来起こるべく事態に対処するためのマネジメントが必要である。家庭科の男女共修(習)で学んだ人たちが家庭を持つ時、男女同一労働がどのようなになるかに期待したい。

(複数回答)



注 調査対象は、職業所定の男女
労働経済誌「東京の女性労働事情」(1995年版)

図2 女性が働き続けるために必要な援助・制度(東京)

(時間:分)

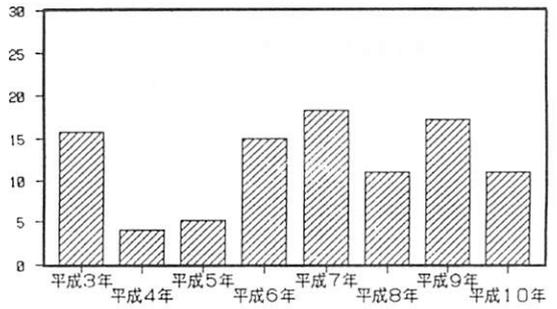


図4 後片づけ

(時間:分)

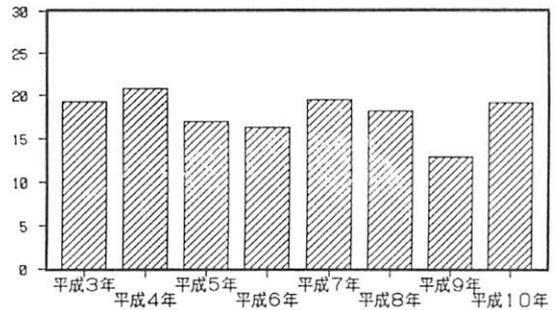


図5 掃除

(時間:分)

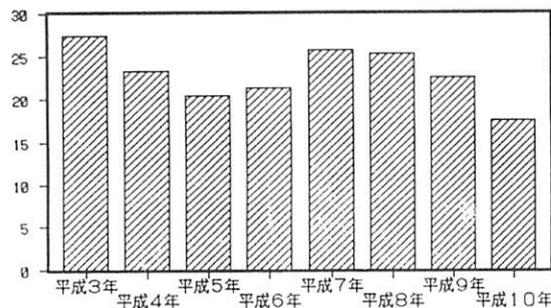


図3 調理

(時間:分)

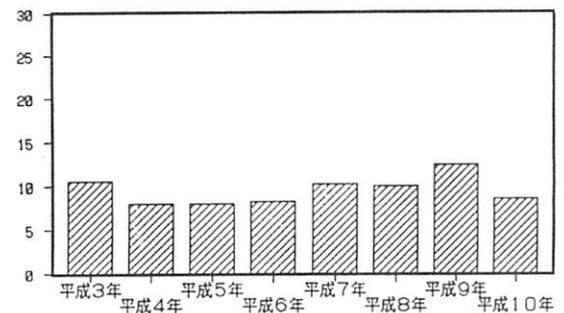


図6 洗濯

表2 男女有業者の行動時間(睡眠・仕事・通勤・家事)

	男性有業者						女性有業者			
	睡眠		通勤				睡眠		通勤	
	初夜なし	初夜あり	初夜なし	初夜あり	初夜なし	初夜あり	初夜なし	初夜あり	初夜なし	
睡眠	7.31	7.30	7.27	7.32	7.32	7.27	7.28	7.10	7.14	7.07
仕事	7.07	7.33	7.45	7.23	7.31	7.35	6.09	4.39	4.17	4.56
通勤	0.59	0.55	0.46	0.59	0.54	0.65	0.54	0.31	0.28	0.33
家事	0.24	0.54	0.49	0.56	1.08	0.30	1.03	5.26	6.37	4.28
食事・掃除・洗濯	0.07	0.05	0.07	0.03	0.05	0.04	0.32	2.44	2.51	2.39
買い物	0.12	0.12	0.11	0.13	0.12	0.12	0.19	0.34	0.34	0.33
子どもの世話	0.00	0.26	0.23	0.31	0.41	0.06	0.01	1.54	3.19	0.44
家事雑務	0.05	0.10	0.10	0.11	0.11	0.09	0.11	0.50	0.50	0.50

注：一日の時間配分(週平均)
 NHK「日本人の生活時間1995」

引用文献

- 1) 図1 平成8年度版「女性の現状と施策」総理府編
- 2) 図2・表2 平成8年度「女性労働のガイドブック」
 東京都労働経済局